

## 環境問題における立場と責任

### ☆はじめに

世界には、第1次産業への依存割合が高い途上国と、第2次・3次産業が主となっている先進国がある。先進国が引き起こした環境破壊の影響は、途上国のほうが受けやすいが、途上国は技術・経済・人の面において独自に対応していくには難しい。そこで、途上国で起きている環境破壊においてどのような取り組みを行っていくべきか考えた。

### ☆国連・国家・市民の役割について

発展途上国における環境問題

背景：開発圧力、貧困問題＋気候変動など地球環境問題による影響（弱者である途上国へのダメージが大きい）

途上国の環境問題にする先進国の関わり

#### ◎政府：

ODA（政府開発援助）

→ただし、費用対効果のある都市部に援助が偏る傾向があり、地域の環境改善には寄与していないという指摘

#### ◎NGO：

ODAの行き届かない地方の環境問題にピンポイントに援助をすることができる。

活動に賛同する市民や企業からの資金をもとに発展途上国における環境改善に貢献している。

NGOと国連との関係：

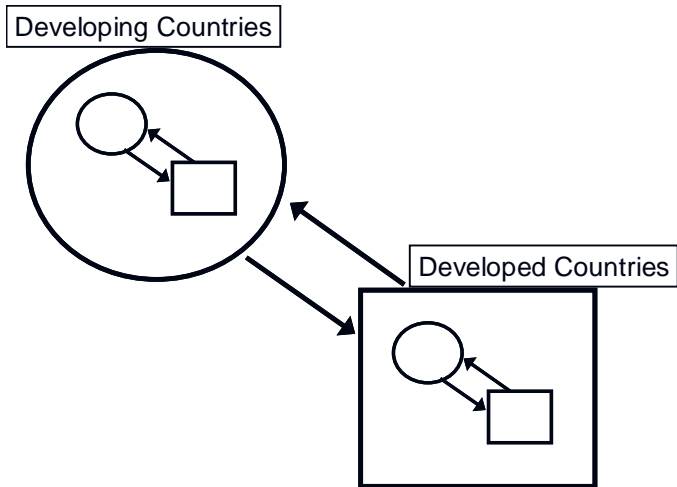
NGOは国連が途上国においてさまざまなプロジェクトを行う際に自らの知識や経験に基づいて国連に対しての提言。

国連と国家の関係：

国連は様々な環境改善・環境保護を目的とした条約を提案。

締約国は条約上の義務を守るために国内法を整備。

このように環境破壊に取り組むには途上国や先進国のそれぞれの立場で取り組み方がことなる。しかし実はそれぞれの国の中でも弱者と強者という関係があるのではないかと考え、里山問題でも同様にどう取り組んでいくか考えてみた。



## ☆里地里山保全

なぜ里地里山を守っていくことは大切なのか？

→文化的価値としての里山の重要性に注目

だれが里山を守っていくか？

→里山と直接に関わる農村地域の人だけに守る責任を押し付けるのではなく、国として、都市の人たちも含めてみんなが守っていくべき

立場としてあげたもの

→政府、農村市民、都市市民、里山利活用団体

<やるべきこと>

### ①里山を利活用する

里山は、人為的なものを加えないと荒廃してしまう。里山を荒廃させないためにも人間が管理する必要がある。炭焼きを行うことなどは里山の森林をコントロールする良い例である。これは、里山地域に住む人たちが協力して行う必要がある。

### ②里山に関する情報を里山・保全利活用団体を通じて都市に発信する

これは、里山地域の人たちが広報を行うことが必要だと思ったからである。情報発信を行わないと、その問題が潜在化してしまう可能性が強い。これは、地域住民と共に、里山・保全利活用団体が協力して行うことによってより広くネットワークを構築でき、効果も向上する。

### ③都市の人が里山の理解を深める

都市の人が里山に直接関わる事は少ないために、里山の問題などが認識されにくい。一方で、里山は、文化的価値としてみんなで保護すべきことである。そのために、都市の人でも里山に関して理解を深めなくてはならない。そのための方法として、農村地域の情報を得る機会を設けることやグリーンツーリズムに参加することなどがある。

#### ④環境教育や文化的価値への理解を深める教育をする

日本人が一番意識の足りない部分である。これらの教育は、国家はもちろんのこと、地域レベルでも取り組んでいく必要がある。

#### ⑤法整備を施す

様々な法整備があげられる。里地里山そのものの保全、伝統的な文化の保護、里地里山地域に住む人々への経済的支援といった法整備が国家、そして地方自治体に求められる。

## ☆おわりに

今回、里山問題と先進国・途上国の間で生じる国連の役割に焦点を当てて話を進めてきた。環境問題を解決していくためには、影響を受けている人たちだけでなく、それぞれの立場で何ができるかを考えて実行していかなければならない。

図によってもわかるように、先進国・途上国といった国際的な関係で考えた場合でも都市・農村といったローカルな関係で考えた場合でも同様の構図になる。どちらも強者弱者の格差に対する対策を考慮すべきということではないだろうか。

清水晴恵、鈴木悠理、李雪、徐茵非、李思平、高木慶次、谷内孝充、内山健、立石麻紀子、小山安侑美